

Jump 井坂しんや

E-mail CQW23040@nifty.ne.jp
ブログ <http://isaka.lcpweb.jp/>



安心して暮らせる社会のために

共産党県議団の代表質問

11月28日から県議会第3回定例会の後半が始まりました。

12月5日には、日本共産党県議団を代表し、大山奈々子県議(横浜市港北区)が質問に立ちました。

あらゆる差別を解消するために

神奈川県内では、ヘイトスピーチ(差別的表現で特定の民族に向け攻撃、脅迫、侮辱をする発言)をする団体が、川崎市をはじめ、横浜市、相模原市などで相次いで集会を実施しました。そしてこれらの団体はその様子をネットを通じて全国へ配信をしています。このことで多くの方に癒しがたい傷を負わせます。

県内では市民団体がその行為をやめさせようと立ち向かっています。

また、他の自治体では条例をつくり、規制に取り組んでいます。

県として差別解消の条例を

東京都では本年10月にヘイトスピーチとLGBT差別を一体に解消を目指す「東京都オリンピック憲章にうたわれる人権尊重の理念の実現を目指す条例」が制定されました。

オリンピック憲章は、人種・肌の色、性別、性的指向などの理由による、いかなる種類の差別も禁じています。

2020年のオリンピックパラリンピックを迎える上でも、差別をなくすための条例制定を県知事に求めました。

知事は、ヘイトスピーチは許されないと認識

を示しましたが、条例制定については、かながわ人権政策推進懇話会でさらに議論を深めたいと述べるにとどまりました。

視覚障がい者の参政権の保障を

来年は統一地方選挙と参議院選挙が控えていますが、視覚障がい者の方々から、様々な要望が寄せられています。

例えば、選挙公報の点字版あるいは音訳版が用意されていない市町村が、県内33市町村中2市12町村もあり、情報格差が生じています。

また、候補者氏名や国民審査の裁判官の点字名簿が期日前投票所にそろっていないこともあるとのこと。さらに、最高裁判所裁判官の国民審査においては、点字投票の場合、罷免する裁判官名をすべて点字で打ち込む必要があります。このことから、まず、審査方法を先に知らせてから裁判官の点字名簿を渡してほしい。投票所入場券には点字シールを貼ってほしいなど、視覚障がいのある当事者でなければ分からないことが多くあります。

文章を点字にするには時間と労力がかかるため市町村の対応に差が生まれています。

こういう時こそ、市町村を支援するのが県の役割です。



貸出物品
点字器

投票所では「点字器」「拡大鏡」「文鎮」「3段階の度数に応じた老眼鏡」を貸出しています。

県選管も、市町村の選管に投票所設備等で留意すべき事項について具体的に情報提供を行っているようですが、更なる支援の強化が必要です。

視覚障がい者の交通安全対策

代表質問が終わった後、視覚障がい者の方たちから交通安全対策・音響装置付信号機の設置について県警察と懇談したいとの要請があり、12月14日に懇談を持ちました。視覚障がい者の方のいろいろな体験談などを聞かせていただき大変参考になりました。

音響装置付信号機の設置を

交差点で音が鳴る信号機があります。「ピヨ、ピヨピヨ」「カッコウ」などの音です。この信号機は音響装置付信号機といい、この音を目安に視覚障がい者の方たちは横断歩道を渡るとのことです。

しかし、県内では約9000機ある信号機の内750機にしか音響装置付信号機はありません。

このような信号機が設置されていないところでは、車の音を頼りに横断歩道を渡るそうです。

しかし、歩車分離式の信号機では、車の音を頼りに歩道を渡ろうとすると車道の信号は青ですが、歩道の信号が赤のため車からクラクションを鳴らされたり、ひかれる危険に会うとのこと。

歩車分離式信号機には必ず音響装置を付けてほしいとのことでした。



エスコートゾーンの設置を

また、横断歩道が斜めになっているなど、道路の形状が変わっているところでは、まっすぐ歩いているつもりでも横断歩道から外れてしまうことがあるとのこと。その時に大変役に立つのがエスコートゾーンです。

エスコートゾーンは、横断歩道の真ん中に点字ブロックが設置されているもので、そこに沿って渡ると安心して横断歩道を渡ることができるとのことでした。

視覚障がい者の方たちにとって音響装置付信号



機は、信号が青になったことを知るためのもの、どの方向に進めばいいのかを確認するためのもの、音の聞こえ方の違いでどのくらいの距離を進んだかを知るためのものだということでした。

こういうことは、当事者に聞いてみないとわかりません。当事者が参加することの大切さを改めて感じました。

2018年を振り返って

今年も残すところあとわずかとなりました。1年という時間の早さを改めて感じています。

今年は、県会議員となってから4年目を迎え、多くの方から寄せられた要望や選挙公約の実現を果たすために取り組んだ1年でした。

国政では、森友・加計学園などの不正問題、TPPや水道の民営化を進め、国民の財産を大資本の利益の対象とする政治、高額な兵器を購入し、米軍と自衛隊の一体化を進め、憲法を変えようとするなど、国民・市民の要望とはかけ離れた政治が続いています。

この安倍・自公政権をやめさせなければいけないと強く感じた1年でもありました。

来年は、いっせいで地方選挙で私も改選を迎えます。そして、7月には参議院選挙もありますので、国政、県政、市政を変えるために全力で頑張ります。引き続きのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

